

平成28年度第1回秋田県後期高齢者医療広域連合運営懇話会

会議概要

【開催日時】 平成29年1月18日（水）午後3時00分から午後4時20分まで

【場 所】 秋田県市町村会館5階 大会議室

【出席委員】 中村会長、櫻庭委員、石田委員、藤原(富)委員、藤原(元)委員、
鳥海委員、保坂委員、古谷委員、高橋委員、喜藤委員

【欠席委員】 三浦委員、藤井委員

【広域連合】 佐々木事務局長、澁谷事務局次長、鈴木総務課長、菅原業務課長、
佐々木総務課長補佐、齊藤業務課長補佐、古仲業務課長補佐、
佐々木総務企画班主査、小松総務企画班主査

【傍 聴 人】 一般傍聴人、報道関係者なし

【議事概要】 以下のとおり

1 開 会

2 事務局長あいさつ

3 事務局職員紹介

4 副会長の指名

連合長の指名により、副会長に保坂委員が指名された。

5 説 明

資料1～4について業務課長が説明した。意見・応答については別紙参照。

6 閉 会

議事における意見・応答について

(1) 平成27年度広域連合事業状況について

委員氏名	石田 竹志 委員 (秋田市シルバー人材センター)
意見	<p>○被保険者の負担額について</p> <p>1人当たりの医療費から療養給付費を差し引いた金額が被保険者個人の窓口負担額でしょうか。</p> <p>また、平成26年度と平成27年度それぞれの金額に差があまりないということは、同様に窓口負担額についてもあまり増減がないということですか。</p>
回答 (業務課長)	<p>被保険者が窓口で負担する金額についてはそのような考え方になります。</p> <p>また、平成26年度と平成27年度の窓口負担額については、個人ごとそれぞれの数字には差が発生していると思われれますが、平均した場合には増減があまりなかったということになります。</p>

委員氏名	喜藤 茂 委員 (健康保険組合連合会秋田連合会)
意見	<p>○療養給付費における調剤区分の伸び率について</p> <p>調剤区分の対前年度比の伸び率が全国平均(0.9%)に比べ、非常に高くなっております。</p> <p>秋田県の特徴や固有の問題、高額薬剤の使用など、特徴がありましたら教えてください。</p>
回答 (業務課長)	高額調剤が影響しているものと予想しています。
(鳥海委員)	秋田県の場合は後発医薬品の利用率が若干少ないことが、全国平均より高くなる要因だと予想します。

委員氏名	鳥海 良寛 委員（秋田県薬剤師会）
意見	<p>○調剤にかかる現状について</p> <p>ポリファーマシー（多剤投与）と残薬のことが問題になっており、薬剤師会でも積極的に取り組んでおります。これに合わせ後発医薬品の利用についても促進しています。この部分に関してしっかり対策をしていかないと今後医療費がどんどん膨れ上がると予想されます。</p> <p>今後、高齢化の影響や高額薬剤の登場により、医療費にも様々な影響が与えられると思っており、我々も問題解決に向け積極的に取り組んでいきたいと考えていますので、ぜひご理解をいただきたいと思っております。</p>
回答	

委員氏名	中村 順子 会長（国立大学法人秋田大学大学院）
意見	<p>○「かかりつけ薬局」について（鳥海委員へ質問）</p> <p>「かかりつけ薬局」を全国的に啓発していますが、実際の状況としてはどんな感じですか。</p>
回答 (鳥海委員)	<p>昨年度、患者のための薬局ビジョンが厚生労働省から示され、「物から対人へ」という形で信頼関係を築くという考えから「かかりつけ薬局」という考え方が出てきました。</p> <p>すでに指導を始めていますが、ポリファーマシーの問題に関しては処方方をどうやって医師の方々とコミュニケーションをもって、最低限の薬で治療を行っていくのか。残薬の問題に関しては、薬を飲んでいない患者さんに対して、どうやって患者教育を行っていくか。これらが現在薬局に求められている課題です。</p> <p>患者のためはもちろんですが、保険医療に係る経済的なバックステージを保つためにも必要な事項と認識していますので、関係各位のご協力をいただきながら「かかりつけ薬局化」ということを進めていただきたいと思います。</p>

委員氏名	石田 竹志 委員 (秋田市シルバー人材センター)
意見	<p>○健康診査事業について</p> <p>受診率の目標設定は、各市町村で個々に自主的に設定しているのでしょうか。</p> <p>広域連合として、この受診率というものをどのように分析して効果向上を目指されているのか。通知や関係団体の協力をいただいで施策を行っているという説明でしたが、詳細を教えてください。</p>
回答 (業務課長)	<p>1点目の目標値については、説明にある19%という数値は広域連合が設定した秋田県全体の目標値になります。市町村毎にはそれぞれで目標値を設定していると思っております。</p> <p>2点目の効果向上については、これまでの結果を踏まえデータヘルス計画において達成可能な数値を目標設定しているところですが、平成28年度から各市町村の事情等をヒアリングしております。また、他市町村担当者との意見交換を行っております。</p> <p>全体的な底上げはもちろん、市町村間の地域差解消にも努めております。</p>

委員氏名	鳥海 良寛 委員 (秋田県薬剤師会)
意見	<p>○健康診査事業の受診率向上について</p> <p>ここ数年、中高生に対する薬授業や健康授業が行われており、義務教育の中でも命の教育が進められています。逆に高齢者の方々になると医療に対する情報提供や認識が非常にされていません。現場で患者さんとコミュニケーションを図ってもちぐはぐなやり取りが多いです。</p> <p>健康サークルや老人クラブなど様々な団体を利用して、健康に関する基礎教育を行ったうえで、受診率を上げていくという全体的な底上げを狙う施策を講じていかないと受診率はあがらないと感じます。</p> <p>効果をあげることを考えると実施事業の組み立て方法そのものを見直す必要があると思います。</p>
回答 (業務課長)	<p>健診の受診については、受診される方は毎年受診される、受診しない方は一切しないという話を市町村の担当者から伺っています。1年間に健診も受診しない、病院にもかかっていない方々にどうやって声かけをしていくのかということが今後の課題だと思っております。</p>

委員氏名	中村 順子 会長（国立大学法人秋田大学大学院）
意見	○総合的な施策の展開について
	<p>歯科健康診査事業の実施市町村数を増やすことを目指しているということでしたが、この事業は口腔ケアにも直接的に結びついて、最終的には医療費にも直結してくるところだと思います。</p> <p>「病気の予防」・「健康長寿」・「健康寿命を延ばす」ということは大事なことでありますが、後期高齢者の特徴を踏まえて、バラバラに実施するのではなく、全体的に医療費までつながるような形で総合的な施策をしていくことが重要になるのではないのでしょうか。</p> <p>また、訪問看護をもっと活用していただき、健康管理やお薬に関することを高齢者やご家族の方々にもっと啓発することもできると感じております。</p>
回答 (業務課長)	今後、我々後期高齢者医療広域連合が市町村の国民健康保険や介護保険と連携していかなければならないと考えており、平成29年度の重点的な取り組みに考えております。

委員氏名	中村 順子 会長（国立大学法人秋田大学大学院）
意見	○資料について（次回要望）
	入院外区分が「在宅医療」か「それ以外」なのか数字で確認したいので、次回開催時の際は集計をお願いします。
回答 (業務課長)	

(2) 平成27年度健康づくり訪問指導について

委員氏名	鳥海 良寛 委員 (秋田県薬剤師会)
意見	<p>○健康づくり訪問指導の対象者について</p> <p>今回対象になった方の中で、最大の重複受診やレセプトの枚数、通院日数を教えていただきたいです。</p> <p>どの程度の重複受診や頻回受診などの全体像を見たいと考えています。そこから、「どの程度からどの程度まで改善したのか」また、「訪問拒否している方々はどのくらいのレベルの方々なのか」といった内容をもう少し把握させていただかないと効果があったのか全体的な評価を行うにはまだ十分ではないと思います。</p>
回答 (業務課長)	今後統計の取り方として、改善させていただきます。

委員氏名	石田 竹志 委員 (秋田市シルバー人材センター)
意見	<p>○高齢者の生きがいづくりについて</p> <p>高齢者は文化や社会参加の生きがいづくりも健康増進のためには大切だと考えており、そういう指導を行うことも大切だと思います。</p> <p>この資料の中の「運動や生活活動の指導」に文化や社会参加の生きがいづくりも含まれていると理解してよろしいでしょうか。</p>
回答 (事務局長)	<p>私どもは保険者であり、健康づくり訪問指導に関しましても医療方向からの事業に限定されることとなります。</p> <p>よって、市町村で行っている文化的な創造などの分野につきましては、担当の市町村と連携を図って調整していきたいと考えておりますので、ご了承ください。</p>

委員氏名	櫻庭 慧子 委員 (秋田県老人クラブ連合会)
意見	○訪問拒否について
	<p>自分の住んでいる地域では、高齢者の方々は他地域の人たちが訪問してくることをとにかく嫌っています。</p> <p>この事業における訪問拒否の方々もおそらくこのケースだと思います。市町村の包括支援センターや民生委員の方々などと連携するなど、訪問拒否の方へのアプローチを検討していただけないでしょうか。</p>
回答 (事務局長)	<p>地域包括ケアや民生委員さんなど「地域の力」をお借りしながら、関係市町村とも十分に連携を図り、お話いただいた方向に進んでいきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひします。</p>

委員氏名	鳥海 良寛 委員 (秋田県薬剤師会)
意見	○啓発について
	<p>今年、長寿振興財団が中心になって行われるねんりんピックが秋田県で開催されます。</p> <p>このような機会を利用して、健康意識の向上、食生活や運動など啓発運動をしていくことが求められるのではないのでしょうか。</p>
回答	

委員氏名	藤原 元幸 委員（秋田県歯科医師会）
意見	<p>○フレイル予防について</p> <p>「食べる」ということが生きていくうえで非常に大切なことで、いつまで自分で食べられるかというのが、一番の課題だと思います。</p> <p>そこで、食べる機能を保つためにはフレイル予防が不可欠で、65歳をすぎたら運動をしなければいけないと考えています。</p> <p>こんな運動がフレイル予防につながるということを国民運動のような形で高齢者に広めていかないといけないのではないのでしょうか。</p> <p>「食べる」ためには「座る」という機能が必要になり、そのために次は「座る」機能を保つためにはどんな運動が必要なのか、そのような考え方で様々な事業を行っていかねばいけないと思います。</p>
回答	

委員氏名	中村 順子 会長（国立大学法人秋田大学大学院）
意見	<p>○包括的な事業展開について</p> <p>「健康づくり」という分野でどのようなことをやっていくかということを総合的に考えて、対策していく必要があると感じました。</p> <p>バラバラの分野のそれぞれの事業から1つ1つのことをするのではなく、包括的に地域の人たちの状況を見る必要性があり、その一部に後期高齢者医療があるのだと思います。</p> <p>今後、「事業・情報・人」を「つなぎ合わせる」作業をしていただきたいと思います。</p> <p>課題分析を行っていただくことにより、今後もっと発展性のある事業になると感じております。</p>
回答	

(3) 平成28年度ジェネリック医薬品差額通知事業について

委員氏名	鳥海 良寛 委員 (秋田県薬剤師会)
意見	<p>○後発医薬品について</p> <p>後発医薬品の利用促進が始まった頃の、秋田県の状況は下から数えて2番目ぐらいでした。それが現在30位まであがってきたのは、利用促進が進んでいる効果だと思います。</p> <p>データを見るとまだまだ切替え率をあげることは可能だと思います。今後も引き続き実施されるということですので、期待しております。</p>
回答	

委員氏名	鳥海 良寛 委員 (秋田県薬剤師会)
意見	<p>○後発医薬品から先発医薬品への再切替えについて</p> <p>先発医薬品から後発医薬品に切り替え、更にもう一度先発医薬品に戻した方がどれくらいいるかというデータを事務局からいただきました。</p> <p>統計の取り方として、この数値はパーセントではなく実数としてとらえていく必要があると思います。そして、この方々が「どうして切替えを行ったのか」という要因分析を行い、説得するための手段を見つけていかなければならないと考えておりますので、その手段を見つけていけるような情報を今後いただければと思います。</p>
回答	

委員氏名	櫻庭 慧子 委員 (秋田県老人クラブ連合会)
意見	○ジェネリック医薬品について (鳥海委員へ)
	<p>自分が所属している老人クラブで、ジェネリック医薬品についても話をすることがあります。みんな何のことか理解していないし、先生に聞いても詳しく説明してもらえていなく、ほとんど理解できておりません。</p> <p>私たちの団体以外にもそういう高齢者は多いと思いますので、もう少し詳しく説明してもらえたらいいなと思っております。</p>
回答 (鳥海委員)	<p>薬に関しては、医師の考え方、処方する先生の考え方、薬局の薬剤師の考え方にそれぞれ差があるという現実があります。</p> <p>医療機関側の課題として、処方医と薬剤師でコミュニケーションをしっかりとりながら話し合っていきたいです。</p> <p>また、被保険者の方々も薬に対する誤解がだいぶあるようなので、その事実を十分に認識したうえで、ご高齢の方々にわかりやすく説明させていただきたいと思っております。</p>

(4) 平成28年度医療費通知事業について

委員氏名	喜藤 茂 委員 (健康保険組合連合会秋田連合会)
意見	○医療費通知について
	<p>これまで毎月通知していた高額療養費支給者への通知をやめて、こちらの医療費通知を送付しているということでしょうか。</p>
回答 (業務課長)	<p>高額療養費支給者への通知をやめて、対象者を全ての被保険者に拡大し、医療費通知を送付しております。</p>

(5) その他

委員氏名	中村 順子 会長
意見	<p>今、包括的に事業を行っていくことが求められています。地域包括の中の一部に後期高齢者の医療、健康増進に係ること、医療費に関すること、それぞれがあり、包括的に行っていく必要があると思います。</p> <p>また、「訪問する」だけでなく「集まる」ということにも目を向けていただきたいです。後期高齢者の方々にとっても集まりの場があるのはすごく大事なことだと思います。</p> <p>「暮らしの保健室」という動きが全国的に広がっています。この活動は自治体ではなく、任意団体による活動で、誰でも集える保健室として、いろんな相談や健康教育なども行っています。</p> <p>このような新しい発想で、施策がバラバラにあるのではなく、場づくりをしながら、健康づくりをしながら、医療費のことも考えながら展開していけたらよいのではないかと思います。</p> <p>今ある場を利用してもいいし、ぜひ連携した形で今後実施して行っていただきたいです。</p>
回答	